

社会科学

この分類には、政治、法律、経済、統計、教育、民俗などが含まれます。

ここでは、栃木県の行政、統計、教育、民俗や民話等の資料を紹介します。

2 明治期から続く栃木県の総合的な統計書



『栃木県統計年鑑』
（『栃木県統計書』）
栃木県
1956～（昭和 31 年～）
[1892～（明治 25 年～）]
26～30cm [24～27cm]

県や国、関係機関がまとめた栃木県の主要な統計資料を総合的に集録した統計書。第1回は昭和30年度版（昭和31年3月刊行）で、現在も刊行中である。前身は明治20年初刊の栃木県統計書で、戦時中の中断を除き、継続的に刊行されてきたものである。

人口、経済、社会、文化など各分野にわたる基本的な統計資料を体系的に集録しており、それぞれの統計には出典も付されている。数字から栃木県の現状を捉えることができる資料として、行政施策の基礎資料や民間企業の経営資料、学術研究に幅広く活用されている。

司書が統計関係のレファレンスを受けた際に、最初に手に取る資料である。

レファレンス

【請求記号：T350/3】

1 昭和 28 年度から 31 年度までの町村合併の状況を詳細にまとめた資料



『栃木県町村合併誌』

（全 5 卷 6 冊）

栃木県

1955～1958（昭和 30 年～昭和 33 年）

22cm

1973 年（昭和 28 年）に町村合併促進法が施行され、これに基づく町村合併が、全国的に行われた。本書は、栃木県の町村合併の状況が、年度別に 5 卷 6 冊に編集されていて、計画から新市町村が出来るまでの流れを知ることができる。

第 1 「政府の措置」には、町村合併促進法の施行、政府における町村合併の促進措置、全国の町村合併進捗状況が、第 2 「県の措置」には、栃木県町村合併促進協議会の設置と審議状況、具体的な町村合併計画が、収録されている。第 3 「栃木県内の合併状況」には、新市町村ごとに合併前からの町村の沿革、合併時の状況（行政、人口、予算、教育など）、合併までの経緯（合併研究会、住民への対応、議会など）と合併後の措置・組織・建設計画、廃止式の経費が具体的に書かれている。

レファレンス

【請求記号：T318/1】

3 凄惨な殺人事件に残った不可解な謎を解き明かす実録



『栃木リンチ殺人事件』
警察はなぜ動かなかったのか
黒木昭雄／著
草思社
2001（平成 13 年）
245p 20cm
※絶版もしくは重版未定

1999 年（平成 11 年）12 月、県内で 19 歳の少年が殺害された。複数少年による拉致・監禁・暴行・恐喝の末の殺人、そして死体遺棄であった。

被害者の両親は事件の 2 か月前から地元警察に相談していたが、警察は取り合おうとしなかった。

警察はなぜ動かなかったのか。著者は元警視庁の警察官でジャーナリストの黒木昭雄氏で、事件資料を克明に検証し、事件関係者への取材を行った。そして一つの仮説を立てた。目を覆いたくなるような事実から目を背けることなく、丁寧に資料・取材結果を分析した資料である。

当館では、『十九歳の無念』（三枝玄太朗／著 角川書店 2002）などの、本事件の資料も所蔵している。

貸出

【請求記号：T368/25】

4 栃木県が誇るワインができるまでの道のりを描く一冊



『こころみ学園奇蹟のワイン』

川本敏郎／著

日本放送出版協会

2008(平成 20 年)

254p 19cm

「ココ・ファーム・ワイナリー」は、栃木県が誇るワイナリーである。同社のワインは、2000 年(平成 12 年)の九州沖縄サミットで使用され、全国にその名を知らしめた。現在、日本航空のファーストクラスで振る舞われるなど、評価を確実なものとしている。このワインの原料であるブドウを生産しているのは、知的障害者更生施設「こころみ学園」である。

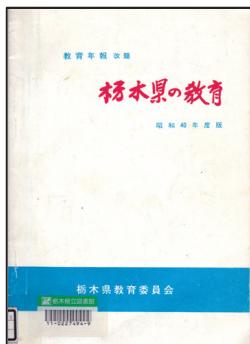
本書は、園長がワイナリーを創設し、カルフォルニアから招いたワイン醸造のエキスパートによって作られたワインが、高く評価されるまでの過程を、鮮明に映し出している。

当館では、『山の学園はワイナリー』(川田昇／著 テレビ朝日出版 1999)、『ブルース、日本でワインをつくる』(ブルース・ガットラヴ／著 新潮社図書編集室 2014)などの関係者が執筆した関連資料も所蔵している。

貸 出

【請求記号 : T369/253】

6 1年間の栃木県の教育の動向を知ることができる資料



『栃木県の教育』

(『教育年報』)

栃木県総合教育センター

(栃木県教育委員会)

1966～(昭和 41 年～)

26～30cm

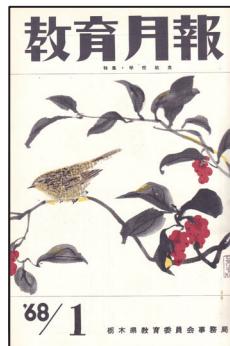
栃木県の教育に関する組織、施策、施設、機関などの 1 年間の実績をとりまとめ、毎年発行している資料である。前身は、「教育年報」で、1966 年(昭和 41 年)に「栃木県の教育」へ改題し、現在も刊行中である。

「教育委員会」、「教育行政」、「教育財政」、「学校管理」、「学校教育」、「生涯学習」、「社会教育」、「スポーツ」、「文化」、「教育機関等事業」の 10 項目に分け、県教育委員会が実施した事業や調査について、表やグラフを使ってわかりやすくまとめられている。また、各年度の資料を比較することで数値の変化や近年の動向を知ることができる。

レファレンス

※館内利用の卷号あり
【請求記号 : T370.5/5】

5 戦後から続く栃木県教育委員会の広報誌



『教育月報』

(『教育とちぎ』)

(『県教委だより』)

栃木県教育委員会

1951～(昭和 26 年～)

26cm

栃木県教育委員会の各部署の研究成果から教員が執筆した学校現場の情報まで、教育に関するあらゆる情報を掲載している広報誌。発行当初は県立図書館の情報も掲載していた。

レファレンスでは「昭和 20 年代の高校入試の学校別倍率が知りたい。」「特定の学校の昭和期の写真が見たい。」など、県内の教育に関わる相談で活用されることが多い。さらに、「特定の地域住民の生活の様子が知りたい。」など、教育以外の相談にも有効な場合がある。教育を通して、当時の県民生活の実態が垣間見える資料である。

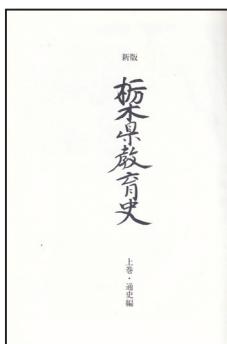
なお、『教育月報』は、215 号(昭和 43 年 5 月号)から『教育とちぎ』に、548 号(平成 8 年 4 月号)から『県教委だより』に改題した。また『県教委だより』614 号(平成 15 年 5 月号)からは、栃木県のホームページで見ることができる。

※館内利用の卷号あり

レファレンス

【請求記号 : T370.5/2】

7 古代から戦後まで、栃木県の教育をまとめた基本資料



『栃木県教育史 新版』

(上・下)

栃木県教育史編さん委員会／編

栃木県連合教育会

1990(平成 2 年)

22cm

1957 年(昭和 32 年)～1959 年(昭和 34 年)刊行の『栃木県教育史』全 5 卷(栃木県教育史編纂会／編)の新版。上下巻の資料である。

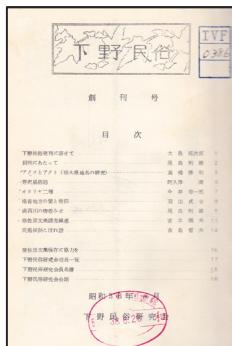
旧版は栃木県連合教育会の創立 70 周年を記念して刊行された。豊富な史料に拠り、穏健中正な史観に立って約 4000 ページにわたり執筆された。

それから 30 年。新版は 100 周年記念事業として編集・発行された。上巻は旧版 5 卷を要約し、新しく発見された資料を加えた通史編、下巻は戦後の教育の流れをまとめた戦後史編である。本文には参考となった史料を細かに挙げており、栃木県の教育史を深く調べる際に役立つ。教育史の調査には、旧版と新版をあわせて確認したい基本資料である。

レファレンス

【請求記号 : T372/56】

8 栃木県内民俗学のパイオニア



『下野民俗』

下野民俗研究会
1963～(昭和 38 年～)
22～30cm

栃木県の民俗学研究者のための情報交換・相互研修の場として、県内で初めて組織された「下野民俗研究会」の機関誌。1963年(昭和38年)創刊で、初期の頃は年1～2回の不定期刊行だったが、現在は年1回の定期刊行になっている。

会員が寄稿する論文、調査報告などを掲載しており、その内容は栃木の郷土芸能、祭礼、信仰、伝承・民話など、民俗学分野の多岐にわたっている。また、近年の特集では、東日本大震災を受けての「災害と民俗」(第46号・平成25年)や、研究会の発足に尽力し、初代理事長を務めた民俗学研究者・尾島利雄氏の追悼特集(第48号・平成27年)などが扱われており、県内の民俗学分野の研究動向も知ることができる。

※館内利用の巻号あり
【請求記号 : T380/2】

10 栃木県の郷土料理「シモツカレ」の歴史を紐解く資料



『ある郷土料理の100年
「元三大師の酢ムツカリ」から
「シモツカレ」へ』
松本忠久／著
文芸社
2002(平成14年)
392p 20cm
※絶版もしくは重版未定

栃木県の郷土料理の代表とも言える「シモツカレ」の研究書である。

平安時代の「宇治拾遺物語」や「古事談」に出てくる「酢ムツカリ」と関係があるのだろうか、どのような足跡で、琵琶湖畔で食された料理が、遠い北関東の地へと伝わったのか、多くの資料から検証している。参考文献が巻末ではなく該当ページに掲載されているため、読みながら検証することができ、説明事項に写真が豊富に盛り込まれているため、理解し易い。

また「シモツカレ」には必須の調理器具「鬼おろし」などの歴史や、これが初午の行事食になった理由なども調査している。

貸出

【請求記号 : T383/19】

9 栃木の民俗を網羅的に解説



『栃木民俗探訪』

とちぎの小さな文化シリーズ企画
編集会議/編
下野新聞社
2003(平成15年)
246p 21cm
※絶版もしくは重版未定

栃木県立博物館、小山市立博物館の民俗担当の4人の学芸員が、栃木の民俗の基本情報について執筆した資料である。栃木県民にずっと伝えられてきた暮らしの様子を中心に、読者が記載の場所を訪れ、執筆者の思いに共感できることも念頭において執筆した。

「衣食住」、「信仰」、「祭」、「年中行事」、「人生礼儀」、「民俗芸能」、「伝説」、「伝統産業」の8分類で構成し、項目ごとに、写真や地図と共に詳細な説明がされている。また、神仏や暦などについての「コラム」が章の間に掲載されている。

巻末に「民俗に関する問い合わせ 110 番」があり、博物館などの一覧と回答可能な項目が明記されている。また、主な参考文献も掲載されている。

貸出

【請求記号 : T382/9】

11 栃木県の民俗芸能の保護・伝承のための基礎資料



『栃木県の民俗芸能
栃木県民俗芸能緊急調査
報告書』
栃木県教育委員会/編
栃木県教育委員会
1998(平成10年)
320p 30cm

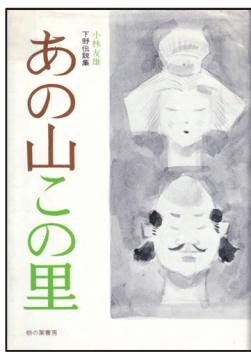
県内各地に伝承されている民俗芸能(神楽、獅子舞、お囃子、天祭・天念仏、念仏踊り、人形芝居、地芝居など)について実態を調査・記録し、その保存・伝承に資すること目的として発行された報告書。平成8・9年度の2か年にわたり「栃木県民俗芸能緊急調査」を実施し、県下全域255の民俗芸能を収録している。

調査は、当時の若手研究者を中心に丹念なフィールドワークを積み重ねたものである。掲載項目は、所在地、上演期日・場所、伝承組織、伝承地の風土と芸能の歴史、芸能の構成などで、一部の芸能については、笛、太鼓、鼓などの楽譜を採譜しており、こちらも貴重である。

貸出

【請求記号 : T386/79】

12 栃木県内の伝説をまとめた代表的な一冊



『下野伝説集 あの山この里 改訂増補版』

小林友雄／著

月刊さつき研究社(栃の葉書房)

1976(昭和 51 年)

398, 5p 22cm

※絶版もしくは重版未定

1930 年(昭和 5 年)に栃木県女子師範学校附属小学校(現・宇都宮大学教育学部附属小学校)から出版された同名作品の改訂版で、多くの要望を受けて再出版された。

本書は、市町村の合併を受けた地名の変更、旧漢字・かなの修正、尺貫法とメートル法の併記といった時代に即した内容の見直しを行いつつも、原本の体裁を極力残したものとなっている。

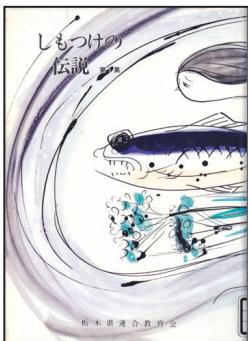
なお、1932 年(昭和 7 年)に、後編の『下野伝説集追分の宿』が出版され、1976 年(昭和 51 年)に、この改訂版が出版された。

著者は、1958 年(昭和 33 年)に郷土史研究の功績から栃木県文化功労者表彰を受けた。

レファレンス

【請求記号 : T388/2/2-1】

14 挿絵とともに味わう 栃木県内各地域の伝説集



『しもつけの伝説』

(1~8 集)

栃木県連合教育会／編

栃木県連合教育会

1979~1984(昭和 54 年~59 年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

1959 年(昭和 34 年)から刊行された『下野伝説集』(全 6 集)に掲載された作品について、表現や表記を修正するとともに、新しい話を採録したものである。

県内各地域に伝わる作品を取り上げており、第 1 ~6 集は、『下野伝説集』を基に再編、再録したものを中心とし、第 7 ~8 集には、新しく採録したものが含まれている。

文章の表記は、小学校高学年を対象とした漢字や送り仮名を中心とし、地名・人名などに、ルビが振られており、幅広い年齢層で利用できる。

「栃木県内の坂上田村麻呂伝説について」のレファレンスでも活用し、第 2 集収録の「大豆三粒の大仏」、「ふり面、てり面」を紹介した。

レファレンス

【請求記号 : T388/56】

13 栃木県内各地に伝わる民話を 厳選して紹介した民話集



『栃木の民話』

(第一・二集)

日向野徳久／編

未来社

1961~1965(昭和 36 年~40 年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

TBS 系テレビアニメ「まんが日本昔ばなし」に原話を提供したという、「日本の民話」シリーズの栃木県版である。編著者が収集した膨大な民話・伝説の中から「66 篇」を、その 4 年後に「71 篇」を収録して発行した。

両巻とも「那須・塩谷」、「芳賀・河内」、「都賀」、「安蘇・足利」の地域別に構成され、収録する民話は標準語の語り口でまとめられている。

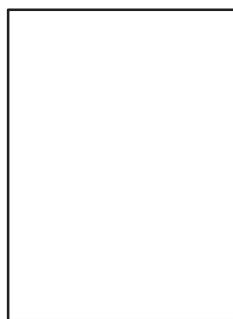
民話のほか「宇都宮の釣天井」、「九尾の狐と殺生石」など、栃木県を代表する伝説・伝承まで広く収録し、巻末には明治中頃まで県内に残っていた「わらべうた」を網羅的に掲載している。

2016 年(平成 28 年)にソフトカバーで新版として再刊された。

貸 出

【請求記号 : T388/12】

15 今に伝わる昔話を全国レベルで調査・ 比較研究した大著



『日本昔話通観

第 8 卷 栃木・群馬』

稻田浩二, 小沢俊夫／責任編集

同朋舎出版

1986(昭和 61 年)

714p 23cm

※絶版もしくは重版未定

全国で語られてきた昔話を県別に編集し、全 31 卷に約 6 万話を収録したシリーズの栃木県・群馬県の巻である。各地域で口承してきた昔話を聞き取り調査し、「むかし語り」、「笑い話」、「動物昔話」、3 分類に分けている。

本書によると、栃木県における昔話の調査は 1926 年(昭和元年)に行われた栗山村(現・日光市)が最初とされている。それ以降、自治体や県民の手によって調査・出版された資料を参考にしつつまとめられており、他に類を見ない口承文学の研究書となっている。典型話の後に、登場人物やエンディングの違い、語り手の性別を掲載した類話を収録している。

貸 出

【請求記号 : T388/74】

16 とちぎの民話を読み聞かせ 語り聞かせるための基礎が学べる資料



『とちぎの民話への招待
読み聞かせ・語り聞かせのために』
尾島利雄／監修、上野直哲／著
随想社
1998(平成 10 年)
158p 18cm

民話のことを知りたい、民話を子供たちに読み聞かせ、語り聞かせをしたい時に役に立つ資料である。

第 1 章では民話についての基礎知識、第 2 章では読み聞かせ、語り聞かせの際のアドバイス、第 3 章では著者が収集した県内の民話を子供たちに語りやすい文章で掲載している。第 4 章では、自分で民話を採集するためのポイントや、栃木の民話の本が紹介されている。

著者は、本書以外にも『民話の海へ』(下野民俗研究会月曜会／編 随想社 1994)、『とちぎの学校の怪談』(下野民俗研究会現代民話研究班／編 随想社 1994) の執筆にも携わっている。

貸 出

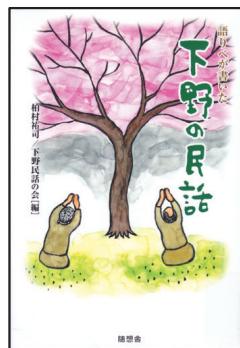
【請求記号 : T388/103】

自然科学

この分類には、数学、天文学、地学・地質学、気象学、地震学、生物学、医学などが含まれます。

ここでは、栃木県の自然、気象、地学、医療史をまとめた資料をご紹介します。

17 民話の語り手が編んだ栃木県の民話集



『語りべが書いた
「下野の民話」』
柏村祐司、下野民話の会／編
随想舎
2006(平成 18 年)
143 p 19cm
※絶版もしくは重版未定

2004 年(平成 16 年) 下野民話の会では、創立 10 周年の節目に民話集の刊行提案があり、その 2 年後に伝説を主とした民話集として刊行された。

会員が話者から直接聞いた民話や既刊の民話集などに掲載されている中から、会員が次の世に伝えたいと思った民話を取り上げている。「乙女の機織にまつわる話」、「池や渕・用水・滝にまつわる話」など、話の特徴ごとに収録されている。

1 話ごとに再話者が明記され、話者・協力者、参考文献とともに、必要に応じ解説を加えている。

巻末には、栃木県内の伝説が掲載されている資料をまとめた「伝説を載せた参考図書」が収録されている。

なお、2015 年(平成 27 年) に、改訂版である『新語りべが書いた下野の民話』が刊行されている。

貸 出

【請求記号 : T388/121】

18 栃木県内自然観察の座右の書



『下野の自然をたずねて』
(No.1~4)
自然史研究会／編
下野新聞社
1982~86(昭和 57 年~61 年)
19cm
※絶版もしくは重版未定

自然史研究会の編集により、1982 年(昭和 57 年) に発行されたシリーズ。「No. 1 日光」、「No. 2 那須 栗山・塩原」、「No. 3 鬼怒・那珂・渡良瀬 春から初夏に見られる低山地や平地の植物と蝶」、「No. 4 No. 3 の〔夏から秋〕」と全 4 冊が刊行された。自然の景観に恵まれた本県であるが、地域ごとに観察できる自然に特化して、環境別に植物を示している点が特徴的な資料である。

地域の風土に溶け込む美しい植物の写真とともに、名称、生育地、分布、草たけ及び花期が紹介されており、自然散策や登山で出会った植物を調べる際に役立つ。自然観察の手引となる野外ハンドブックの草分けとして、長年県民に親しまれてきたシリーズである。

貸 出

【請求記号 : T400/3】

19 明治以降の栃木県の天候や災害を豊富なデータで振り返る



『栃木県の気象百年』

宇都宮地方気象台／編

宇都宮地方気象台

1990(平成2年)

233p 27cm

宇都宮地方気象台が、創立100年を迎えるにあたり1987年(昭和62年)から編集委員会を組織し刊行された資料。「沿革編」と「資料編」の2部構成となっている。

「沿革編」は、宇都宮地方気象台及び県内測候所・気象通報所の創設経緯や沿革、職員による回想録が収録されている。

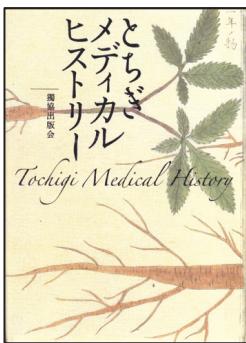
「資料編」は、栃木県の地勢や気候の特徴の解説、気象台及び測候所・通報所の気温・降水量などの気象に関するデータ、宇都宮地方気象台で観測した地震の年別の回数や那須岳の過去の火山活動、本県における災害年表が収録されている。

宇都宮地方気象台が業務を開始した1890年(明治23年)からのデータもあり、本県における過去の気象・災害に関する調査に欠かせない資料である。

レファレンス

【請求記号 : T451/64】

21 栃木県の医学・医療の歴史をまとめた初の医療史



『とちぎメディカルヒストリー』

酒井シヅ／監修指導

獨協医科大学とちぎメディカルヒス

トリー編集委員会／企画編集

獨協出版会(下野新聞社)

2013(平成25年)

479p 22cm

平成24年に栃木県で開催された「第113回日本医史学会総会・学術大会」を機に企画され、獨協医科大学の創立40周年を記念し発刊された、県内初の医療史である。

本編の「医療編」、「看護編」、「薬剤編」、「歯科編」は、栃木県の医学史研究者、郷土史研究者らが執筆し、参考文献も掲載している。また、「栃木県医療行政と医療団体の歴史」には栃木県保健福祉部と、4つの県内医療団体の組織図や沿革がまとめられている。

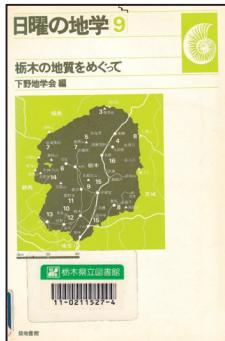
栃木に伝わる民間療法から医療行政の現状まで、本県における医療の歴史を総覧できる。

巻頭には肖像画等のカラー図版を、巻末には栃木県医療史年表を収録している。

レファレンス

【請求記号 : T498/5】

20 地学的な観点から栃木県の特徴を知る資料



『日曜の地学 9

栃木の地質をめぐって』

下野地学会／編

筑地書館

1979(昭和54年)

201p 19cm

※絶版もしくは重版未定

県別や地域別に、地形や鉱物、気象、生物など地学的特徴をまとめた「日曜の地学」シリーズ(既刊26巻)の栃木県版。

栃木県内を山系や渓谷等で区分し、それぞれの地理学・地学的性質を写真や地質図を活用して解説。地学的みどころ、見学コースまでカバーしており、現地を訪れる際のガイドブックとしても活用できる。

専門用語や地名などの漢字にルビが振られており、巻末には索引が掲載されている。

シリーズ刊行のタイトルは「～の地質をめぐって」だったが、後に「～の自然をたずねて」に変更された。本書も1997年(平成9年)に、改訂版である「栃木の自然をたずねて」が刊行されている。

貸 出

【請求記号 : T455/1】